

満点飼い主になるために

1 あなたのペットの正しい知識を得る

あなたのペットの種類に合った飼い方や本能・習性について、獣医師などの専門家に相談したり、専門家の書いた本などを読みましょう。また、犬のように同じ種類のペットでも品種によって必要な世話が大きく異なることがあるので、そのペット全般の知識だけでなく、品種についての知識も必要です。

2 飼育環境を整える

正しい知識に基づいて、ペットの食餌や生活空間の広さや構造、温度、湿度など飼育環境を整えましょう。犬・猫のように、比較的簡単な工夫で人の住環境に同居できるペットもあれば、専用の設備が必要なペットもあります。

飼育場所は毎日清掃して、衛生を保つようにしましょう。

3 毎日よく観察する

ペットや飼育環境を毎日よく観察しましょう。飼育環境でペットがケガをする可能性があるなど問題のある箇所を見つけたら、すぐに改善するようにしましょう。また、ペットの元気さ、食欲、動作、表情などに異常がないか気を配り、普段と違うときは早日に獣医師に相談しましょう。ワクチン接種など病気の予防措置も重要です。明らかな健康異常はなくても、ペットがストレスを感じると、本能・習性と違った行動をしたり、意味のない行動をくりかえす（常同行動）などの異常行動を示すことがありますから、注意して観察しましょう。

4 ペットの立場になって考える

飼い主が冷房の効いたレストランで食事をしている間、車の中に取り残されたペットはどうなるでしょう

か。大音響が鳴り響く花火大会に連れて来られたペットはどう思うでしょうか。ペットは話せませんから、飼い主がペットの立場になってどう感じるか考えなくてはなりません。その場合にも、擬人化するのではなく、ペットの本能・習性に基づいた正しい判断が求められます。

また、ペットにも個々の性格や適性があります。ペットと旅行やスポーツ、福祉施設等への訪問活動などをするときは、飼い主だけでなくペットも楽しんでいるか、精神的・肉体的ストレスを感じていないかなど、ペットの行動をよく見てペットの気持ちになって考えましょう。

5 地域社会に気を配る

ペットを飼うと、気をつけているつもりでも気づかないうちにご近所などに何らかの迷惑をかけることがありますから、周りへの細やかな気配りはペットを飼う上でとても重要です。自分だけがペットを飼うことを楽しむのではなく、ペットが社会に受け入れられるよう、他人の立場に立って考え、行動することが求められます。また、無計画にペットの数を増やしたり、餌を与えて集めたり、繁殖させてしまうなど、自分で適切な管理ができない数のペットを飼うことは、ペットにとって不幸だけでなく、地域社会に大きな迷惑を及ぼします。

6 ペットに関する法令の知識を持つ

ペットに関する法律、条例、規則、条約、基準などで、ペットの飼い主が守らなくてはならないことや努めなくてはならないことが定められています。ペットの種類によっては、飼うにあたり事前に許可が必要なものもあります。知らなかったでは済まされない場合もあるので、あなたのペットについて、どんな法令があるか知っておきましょう。

ペットの服について

ペットに服を着せたり、アクセサリーをつける飼い主がいます。しかし、衣服を必要とする人間と違い、ほとんどのペットは服を着なくても環境に適應できる体を持っていますから、服を着せると暑すぎたり、体の動きを制限してしまうことになります。ペットに服を着せるのは、雨の日の散歩のレインコートや、高齢や病気で体温調節が上手くできないなど、どうしても必要な時だけにしましょう。アクセサリー類も、舐めたり飲み込んでしまうなどの思いがけない事故につながります。人工的なもので飾るのではなく、ペットの本来の姿を愛することが、飼い主の愛情ではないでしょうか。

